

創立 1980年10月8日



# ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0940 堺市堺区車之町西2丁1番30号 ポピア南海3階302号

Tel (072) 223-2300 番 Fax (072) 223-5005 番

URL : <https://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : [snrc@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:snrc@jasmine.ocn.ne.jp)

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 南海グリル 天兆閣別館 4階「ローズ」 Tel:(072)222-0131 番(代表)

ガバナー(第2640地区) : 森本芳宣

ガバナー事務所 URL : <http://rid2640g.com/morimoto/>

E-mail : [morimoto@rid2640g.com](mailto:morimoto@rid2640g.com)

会長: 塩見 守 幹事: 澤井久和 広報委員長: 池田茂雄 編集者: 吉村博勝



四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

## 本日の例会

2022年10月7日(金)第1967回

卓話 「過去、現在、未来」

卓話者 米山奨学生

グエン・ティ・ホアン・オアン様

紹介者 米澤 邦明 会員

今週の歌 「君が代」「奉仕の理想」

「バースデーソング」

お客様の紹介・出席報告・

会長の時間・委員会報告・

幹事報告・SAA報告

○会員・奥様誕生祝い

平野祥之会員 堀畑好秀会員

三上尚嘉会員 嶽盛和三会員

北村勝博会員 吉村博勝会員

城岡キヌ子様 濱口良子様

○結婚記念祝い

該当者なし

## 前回の例会

2022年9月30日(金)第1966回

卓話 「子どもの未来を守る」

卓話者 認定NPO法人 子ども未来

代表理事 辻本 加平 様

紹介者 奥野 圭作 会員

今週の歌 「日も風も星も」

「旅愁」

お客様の紹介・出席報告・

会長の時間・委員会報告・

幹事報告・SAA報告

<9月30日(金)の出席報告>

会員数	29名
出席会員	18名
欠席会員	11名
ゲスト	2名
ビジター	0名

## 次回の例会

2022年10月14日(金)第1968回

「ファイヤーサイドミーティング」

開会 18:30~

於: ニューミュンヘン南大使館

\*10月14日の通常例会は上記夜間例会へ変更します



イマジン  
ロータリー

2022-23年度 国際ロータリーのテーマ

「イマジン ロータリー」

国際ロータリー会長 ジェニファー・E・ジョーンズ (カナダ・ウインザーローズランドRC)

## 卓 話

「子どもの未来を守る」

認定 NPO 法人 子ども未来

代表理事 辻本 加平 様

紹介者 奥野 圭作 会員



本日は堺北ロータリークラブで講話をさせていただきありがとうございます。ご縁をいただいた奥野圭作様に感謝します。

私は今、地元で「子ども食堂」、さらに認定 NPO 法人「子ども未来」を立ち上げて、一人親の子ども達のサポートをさせていただいています。親の「経済格差」が子どもの「幸せ格差」になっている現状にくさびを打つためです。メンタルダウンの方々のサポートのためにコーチング、カウンセリング講座も実施しています。この春幻冬舎から 6 冊目『自分大好き』から『未来大好き』に」を出版させていただきました。印税は全額 NPO に入金します。

私は「人生は求めるものではなく、この社会が自分に求めていることを実行する」という言葉が好きです。私を必要としてくれる「誰か」と「何か」のためにこれから行動してまいります。

10 月からは教育改革にも力を入れていく予定です。規律、規範を守る安定志向の人材を育てる教育ではなく、自分で考えて行動できる機会を提供できる教育を行いたいです。

堺北ロータリーの皆様、私の思いをご理解いただきありがとうございます。さらにご寄付もいただき、深謝いたします。これからも活動を広めていきます。



## 会長の時間

会長 塩見 守



本日の会長の時間は、「時間」は目に見えるものではありませんが、常に私たちの周りにおいて、生活や人生に影響を及ぼしています。そして、それぞれの人にそれぞれの「時間」が与えられ、過ごし方や活用の仕方もいろいろです。世界が変わっていく中で、人々はどんな「時間」を過ごしているのでしょうか。「豊かな時間の使い方」とはどのようなものか、というお話を紹介させていただきます。俳優でモデルをされています小雪さんは、数年前から東京と北国の村との二拠点ライフを続けているようで、「異なるふたつの時間があるから人生がより豊かになる」と話されています。子育てをする環境について考えることが多くなり、都心は人が多く忙しくなりがちで、時間的にも心にも余裕がなくなると、何のためにそんなに忙しくしているのかと思うようになりました。そんな環境の中で、精神と体を育む幼少期はもっと自然豊かなところでぼうっとしたり、走り回ったりすることの方が大事なんじゃないかと思うようになり拠点を作ることにしました。田舎の学校は生徒数が少なくゆとりがあり、先生が精神的にとっても豊かな気がします。先生方に余裕があるから子供一人一人の個性を大事にしてくれて、きちんと丁寧に人間として接してくれる。そういう先生方に触れているうちに、村の学校、村の生活のほうが悪くなったみたいです。都会からみると、田舎での暮らしはのんびりとした癒しの時間だと想像していましたが、畑でさまざまな野菜やハーブを育てる小雪さんの暮らしは正反対だといいます。

「田舎暮らしがのんびりなんてウソウソ。すごい忙しいんだから。いつも自然との闘いな。明日は雨が降るから雑草を取っておくとか、庭のハーブや植物は常に手入れをしないとイケないとか、いつでもやることがいっぱい。休んでいる時間なんてほとんどないほど忙しい。体を休める時間は少ないものの、その一方で心の余裕が生まれるのが田舎暮らしだ。東京だと時間

はただ目まぐるしく流れていってしまうけれど、田舎では時間をじっくりかみしめるような流れ方をしているように感じます。東京と田舎は目的が違うんですね。時間過ごし方、生き方が全然違う。だからこそ両方の時間があるからいいんだと思います。もっと東京と地方の境がなくなって、誰もが自由にふたつの時間を持てるようになったらいいなって思うようになりました。子供たちにはお金を得るための仕事以外にも、気持ちが通って心が豊かになることも同時にできるような大人になってほしい。そのためにも、こうやって人間として生きる姿を見せることがいつか、子供たちの未来の何かにつながるとういなと思っています。」  
 このようなお話を聞いて、私も時間の使い方について考えていこうと思います。



## 委員会報告

### 国際奉仕委員会

「カンボジア スナーダイ・クマエ孤児院  
 絵画展 報告」

国際奉仕委員 嶽盛 和三



カンボジア スナーダイ・クマエ孤児院の絵画展が今年も神戸、和歌山、東京で開催され、毎年神戸展へ行っていますが、今年は日程が合わず、クラブでは行く事ができませんでしたが、ちょうど私の東京出張と東京展が重なりましたので、東京都港区の日本アセアンセンターでの東京絵画展に9月29日(木)訪問し、クラブからの支援金を届けてまいりました。  
 この絵画展は、カンボジアの多くの学校では美術の授業がないため、スナーダイ・クマエでは2008年から絵画に触れる時間を施設で取り入れ、日本の支援者の皆さんに直接子どもたちの成長を感じていただき、またカンボジアに興味を持っていただく場として、毎年開催しております。今年も個性豊かで、色彩鮮やかな子どもたちの作品がたくさんありました。  
 当日は、孤児院代表のメアス博子さんと孤児院卒業生のカンさん（日本人と結婚して現在東京に在住）がお手伝いに来ていました。

## 幹事報告

### (1) 配布物

- ・週報
- ・卓話資料
- ・地区大会 公開講演チラシ週報

## SAA 報告

### (50 音順)

- 奥野圭作会員 辻本様、本日は有難うございます。辻本様の卓話、楽しみにしていました。よろしく願い申し上げます。
- 塩見 守会員 辻本様、奥様、本日はようこそ堺北 RC へお越しくださいました。卓話楽しみにしております。
- 城岡陽志会員 辻本先生、今日は楽しみにしています。マル秘の話は奥さんが同席なのでやめときましようね！
- 嶽盛和三会員 久しぶりの例会です。10月からは東京出張減りますので、例会に出て来れると思います。
- 鶴 啓之会員 奥野会員、本日の卓話よろしくお願い致します。
- 中田 学会員 辻本様本日の卓話楽しみです。宜しく願い致します。



畑中一辰会員 辻本様本日は、よろしくお願  
致します。

仙台で牛タン食べてきましたが、  
南海グリルの方がおいしいです  
ネ。

綿谷伸一会員 辻本様、本日卓話よろしくお願  
いたします。昔、娘がお世話にな  
りました。

合計19,000円

◆米山特別寄付・・・嶽盛和三会員

◆ロータリー財団寄付・・・嶽盛和三会員

## その他

### RI ホームページより

#### ポリオの再流行が根絶の必要性を浮き彫りに

ポリオウイルスが何年も発見されていなかった  
場所で、ポリオウイルスが見つかり、さらに  
ポリオの感染が起きました。人間の病気を根絶  
することが簡単ではないこと、特に最終段階に  
おいてはそうであることが改めて示されまし  
た。

ここ数カ月、米国でワクチン未接種の男性に身  
体まひが生じました。英国では、下水からポリ  
オウイルスが検出され、マラウイでは子どもが  
ポリオに感染しました。また、モザンビークで  
は、30年ぶりにポリオが発生したと発表されま  
した。

しかし、ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動  
(GPEI) のパートナー団体は、今後もひるむこ  
となく前進し、ポリオのない世界の実現という  
目標を達成できると確信しています。このよう  
な楽観的な見方には、いくつかの理由がありま  
す。

ワクチン由来の変異型ポリオを引き起こすリス  
クが大幅に低減された新しい経口ワクチンが利  
用可能となりました。これにより、予防接種レ  
ベルが低い地域で、ワクチンの弱毒化したポリ  
オウイルス株の変異によって感染が起きる可能  
性が低くなります。

さらに、ポリオウイルスの感染が続いている常  
在国（パキスタンとアフガニスタン）では、野  
生型ウイルスによる感染者数が歴史的に低い水  
準で推移しています。これは、野生型ウイルス  
を根絶する大きなチャンスとなります。

ここまで来るのに、ロータリーの粘り強さが非  
常に大きな役割を果たしました。GPEI パートナ

一の決意と合わせて、根絶を果たすために必要な  
のは粘り強さです。

「今年、私たちはポリオ根絶活動を継続する重要  
性を学んだ」と、ロータリーのポリオプラス委員  
長であるマイク・マクガバン氏は述べます。「ロー  
タリアンは、資金調達と認識向上の取り組みをさら  
に強化する必要があります」

ロータリーの会員は、30年以上にわたり、ポリオ  
根絶のための世界的な活動の中心的存在となっ  
てきました。1985年にポリオプラスを立ち上げ、  
1988年には史上2度目となる人類の疾病の根絶を  
目標に、GPEI の設立を支援しました。GPEI の設  
立当時、野生型ポリオウイルスによって毎日何百  
人もの子どもたちに身体まひが生じ、1年間に125  
カ国以上で推定35万人のポリオ患者が出ました。  
その後、感染者は99.9%以上減少し、推定2,000万  
人以上が身体まひから救われたとされています。

ロータリーは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団との  
協力の下、毎年1億5,000万ドルをポリオ根絶に充  
当しています。ロータリー会員は、ポリオ根絶活  
動に26億ドル以上を寄付し、数え切れないほど  
のボランティア時間を費やしてきました。GPEI の  
パートナー団体とともに、会員は各地の地域社会  
で高い予防接種率を目指し、毎年4億人以上の子  
どもたちに予防接種を提供しています。

野生株ポリオの発症がゼロに近づくなか、公衆衛  
生の専門家は、ポリオのない地域を含め、どこに  
でも発生する可能性のあるすべての形態のウイル  
スを追跡することが重要であると述べています。

また、長年ポリオが起きていなかった場所でのポ  
リオ再発は、ポリオを含む多くの疾病から身を守  
るワクチン接種の重要性を浮き彫りにしました。  
一部地域で予防接種率が低下している中、予防接  
種を人びとに呼びかける活動への注目も高まっ  
ています。どこでもポリオが発症しうるリスクを認  
識した今、ポリオ根絶活動の重要性を再認識する  
必要があります。

10月24日の世界ポリオデーが近づく中、ロータ  
リー会員には、予防接種の重要性を地域社会に伝  
えることが奨励されています。また、世界的な支  
援者や各国政府による、GPEI の2022-26年ポリ  
オ根絶戦略への新たな資金提供の発表が予期され  
ます。この戦略は、野生型ポリオの根絶と変異型  
ポリオウイルスによるポリオ発生をなくすための活  
動について、各国政府がより大きな説明責任を果  
たすことを主眼としています。

持続的な政治的・資金的コミットメントがあれば  
こそ、世界は今後も、ポリオのない世界の実現に  
向けて前進していくことができるでしょう。